

夜景サミット 2013in 香港（所感）

長崎市議会議員 鶴田 誠二

プレゼンテーションには日本国総領事館、日本政府観光局（JNTO）香港事務所、日本貿易振興機構（ジェトロ）香港事務所、香港日本商工会議所、香港和橋会、香港旅行会社、香港メディア、メディア14社、旅行会社11社、さらに新三大夜景に認定されたモナコからも参加しており、それぞれから各都市の夜景を中心とした観光名所などの特徴について報告がなされ、観光客誘致に向けて懸命にアピールしていました。

特に長崎市は市長自らが参加したこともあってか、プレゼンテーション時間も他都市を大きく上回る発表でした。

また、プレゼンテーションでは地元マスメディアからも注目され「長崎の夜景は香港のような迫力はないが、長崎市特有のすり鉢状の地形から映し出される生活感漂う穏やかな夜景は魅力である」とのアピールは地元マスコミ記事にも大きく掲載されるなど他都市や国と比べ大きく注目されたのは、長崎市への観光客誘致への大きな成果として現れたと思います。

さらに今回サミットをきっかけに、企画社の一団体でもある株式会社 INTO（イントゥ）が日本のケーブルテレビにて来年1月から放送（日本夜景紀行）予定のため、来崎し番組制作に取り組んでいることも今後の長崎夜景宣伝の大きな広がり期待するところです。

ビクトリアパーク（標高5.5.2m）の一般観覧場の上にある（有料）スカイテラスからは360度の視野が広がる夜景はスケールの大きさはもちろん、週末でもあってか大勢の観光客で賑わっており、ゆっくり観賞できる状況ではありませんでしたが、前日の昼間に36度の傾斜のある（トラム）山頂トレインで訪れていたこともあって、登頂の違いについても体験でき、高層ビルから映し出されるダイナミックな素晴らしい夜景を観賞できました。

その後、観賞したシンフォニー・オブ・ライツ（レーザーショー）の観賞については、わずか15分間という短い時間でしたが、会場周辺は交通渋滞で、駐車場確保が困難であり、観光地の駐車場確保は長崎も共通の課題であると思いました。